



平成20年3月7日

関係各位

高千穂交易株式会社  
 代表取締役社長 戸田秀雄  
 (コード番号 2676 東証第1部)  
 問合せ先  
 取締役常務執行役員  
 経営システム本部長 赤堀寛人  
 電話 03-3355-1111

平成20年3月期通期業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ

平成19年10月19日付、当社「繰延税金資産の取崩し及び平成20年3月期業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ」で公表いたしました、平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の通期業績予想(連結・単体)を、下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年3月期通期業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(1) 連結

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	33,670	1,680	1,600	610
今回予想(B)	32,950	1,110	1,140	330
増減額(B-A)	-720	-570	-460	-280
増減率	-2.1%	-33.9%	-28.7%	-45.9%
前期(19年3月期)実績	30,296	1,342	1,448	875

(2) 個別

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	30,350	1,330	1,300	430
今回予想(B)	30,730	765	860	160
増減額(B-A)	380	-565	-440	-270
増減率	1.2%	-42.4%	-33.8%	-62.7%
前期(19年3月期)実績	28,122	933	1,098	654

2. 修正の理由

当期につきましては、原材料価格の高騰に加え、急激な円高や米国経済先行き懸念拡大などの影響による企業収益環境の悪化から、設備投資を見送る動きが表面化するなど、設備投資環境が急速に悪化しております。

このような状況の中、第3四半期まで好調に推移してきましたデバイス事業(主に半導体販売)の

売上高は、減速感があるものの順調に推移しております。

一方で、主力のセキュリティ機器を中心とするシステム機器事業においては、第3四半期終了時点で事業活動状況と受注環境見通し等から通期の見通しを据え置いてまいりました。しかしながら、市場環境の急速な変化を受けて、小売業における設備投資姿勢が軒並み慎重化してきており、セキュリティ機器導入の先送りや見送りの動きがみられます。

そのため、売上高は全体として、前回予想を若干下回る見通しであります。こうした中、各利益項目に関しましては、デバイス事業より利益率が高いシステム機器事業の売上構成比率の低下による利益率への影響等から、営業利益及び経常利益並びに当期純利益ともに、前回予想を下回る見通しであります。

また、個別業績の修正理由につきましても、同様であります。

※ この資料の予想は、本資料の発表日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、多分に不確定要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上